

## コロナ禍後を見据え、今、何をどのように準備すべきか

—企業再生の見地から、コロナ禍後の経営・日本・生き方を考える—

\*一般財団法人 100万人のクラシックライブ代表理事 蓑田秀策氏より教わったこと

開倫塾

塾長 林 明夫

1. (1) 2021年3月20日(土)14:30から約1時間半、足利市八柵町にある日本料理「足利伊萬里」2Fホールで「100万人のクラシックライブコンサート」が「足利伊萬里」と開倫塾の共催で行われました。
  - (2) 開倫塾では、2019年の創業40周年を記念して開倫塾のすべての校舎と開倫ユネスコ協会の行事、全国模擬授業大会などで100万人のクラシックライブコンサートを開催。昨年9月の開倫ユネスコ協会童話大賞表彰式までで96回開催しています。この半年はコロナ禍で中断しております。
  - (3) 開倫塾創業の地である足利市で親しくしている日本料理「足利伊萬里」さんの2Fホールで100万人のクラシックライブコンサートがあると聞き及び、コンサートで用いる電子ピアノを開倫塾所有のものをお使い頂くという形で御協力させて頂くことになりました。
  - (4) 「100万人のクラシックライブ」は若手のプロのバイオリンとピアノの演奏家お二人が要請に応じて身近な場所、例えば開倫塾の教室や東横インのフロントホール、足利伊萬里のホールなどで30～50名の小規模コンサートを開催。クラシック音楽に親しんでもらうと同時に、若手のプロの演奏家に発表の機会をもってもらおうという崇高な理念で2016年につくられた団体です。コロナ禍の前には、開倫塾でのコンサートも含め年間400～500回のコンサートを開催。多くの人々が若手のプロの演奏家の演奏に感激しています。
2. (1) 先日3月20日(土)の足利伊萬里では、青島祥代(あおしまさちよ)さんのバイオリンと、熊井麗音(くまいれいね)さんのピアノ演奏がありました。
  - (2) 演目は
    - ① モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
    - ② パッヘルベル「カノン」
    - ③ メンデルスゾーン「春の歌」
    - ④ 久石譲「人生のメリーゴーランド」
    - ⑤ ベリオ「バレエの情景」
    - ⑥ エルガー「威風堂々」以上の全6曲でした。
  - (3) ①お二人の若手演奏家にとっても、また、観客の我々にとっても久しぶりのコンサートだったせいか、これまで経験したことのない、若いお二人の全精力、全エネルギーを傾けての演奏にただただ感激いたしました。

②特に、5 曲目のベリオ「バレエの情景」は比較的長い曲でしたが、小さいホールの一  
番前の席で聞かせて頂いたせいか、バイオリンの音色が身体を突き抜けていくようで、私  
にとっては生涯で一番感動した演奏でした。

③身も心も清められるとはこのようなことかと思うほど、本当に素晴らしいコンサートで  
した。

3. (1)その「100 万人のクラシックライブ」の代表理事をおつとめの蓑田秀策(みのだしゅうさく)氏は、旧日本興業銀行出身で、みづほ銀行常務をおつとめ後 KKR ジャパンの代表取締役を経て、「100 万人のクラシックライブ」を立ち上げられた方です。当日も足利伊萬里での第 1 回コンサートということでわざわざおいでになってくださいました。

(2)コンサート終了後、折角足利市においでになったのならと、私の大好きなコーヒー店「カフェ アラジン」にお連れし、1 時間余りお話をお伺いしました。

(3)蓑田さんは、銀行マンとしてニューヨークやロンドンでの長い海外勤務を経て、企業再生を手掛ける世界的な投資ファンド KKR ジャパン代表取締役をおつとめでしたので、現在のコロナ禍で苦境のどん底にある企業・経営者や自治体、我々日本人は何をどうしたらよいか質問させて頂きました。

4. (1)蓑田さんは企業再生の立場からと前置きをして、「コロナ禍で今までのやり方では事業の継続が困難であるなら、無駄と思われることはどんどん省き、合理化をすることが第一。次に、同時並行し、コロナ禍後に取り組むべきことを一つでも多く考え、その準備に最善を尽くすこと。コロナ禍で時間があるなら、役員、幹部、社員やお客様、地域社会の方々とコミュニケーションを図り、何が本当に必要なのかを考えることが大事と教えてくださいました。

(2)例えば、人口約 14 万人の足利市の最近 1 か月の出生数はコロナ禍のため 44 名、1 年間で 500 名を割るのではないかと心配すら出てきています。出生数の大幅な減少は、足利市だけでなく、栃木県の全市町、日本の全市町村も同じ状況かと思えます。このままコロナ禍がもう数年続くと足利市だけでなく、日本のすべての市町村、都道府県の人口減は、従来の少子化に加え、一段とスピードを増します。

(3)①お店や企業を支える働く人々が不足するだけでなく、病院や介護施設、消防や警察などで働く人々、公務員などの地域社会を支える人々の確保すら難しくなります。

② 5 年後、10 年後、20 年後の保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、大学は今のままの配置では全く成り立たないこと明白です。

③外国の人を迎え入れるための準備をどうするのか、考え抜かなければなりません。

5. (1)コロナ禍後、自分の所属する企業や自分の生き方、日本や自治体をどうするかを考えて準備することができるのは、この時期しかありません。

(2)このコロナ禍は大変な時期ではありますが、考えようによっては、またとない貴重な機会(チャンス)と捉えることも大切だと思います。

(3)「100 万人のクラシックライブ」のような本格的なコンサートで身も心もきれいに洗い流し、元気を取り戻したうえで、コロナ禍というピンチをチャンスに、コロナ禍後のことを考えて積極的に生きてまいりましょう。

2021 年 3 月 22 日(月)

午前 9:00 ~ CRT スタジオで収録